

一九八二年二月二十五日
印刷
発行



第65卷 第1号

史学・地理学・考古学

論 説

- 幽王チュベイとその系譜……………杉 山 正 明 (1)
——元明史料と『ムイッツル-アンサーブ』の比較を通じて——
- フランス啓蒙時代のフィロゾーフ像……………森 原 隆 (41)
- ソヴェト「二三年危機」……………梶 川 伸 一 (75)
——工業価格問題を中心に——

研究ノート

- 王政改革期のギエンヌ州……………岡 本 明 (106)

研究動向

- ヴァイズテューマー研究の課題……………服 部 良 久 (136)

書 評

- 伊藤唯真著 『浄土宗の成立と展開』……………平 雅 行 (161)

紹 介

- K・ブランシュケ著 寺尾誠訳 『ルター時代のザクセン』(永田諒一)
アイザリア・バーリン著 小池銚訳 『ヴィーコとヘルダー』(芝井敬司)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

して整然たる条理の学を樹立した。彼が一毫も前人に資らずと誇ったのは完全に正当であるが、然も大きく見て気の哲学の流をうけていることは否定すべくもない。彼は伝統的気の哲学より五行説を排除し（仁斎、懷徳堂すでに然り）て陰陽のみを採るが、鬱淳の神の説をたてて伝統的な生々の思想を、気物（天地の説をたてて伝統的な大地——小天地の思想を、あらたに根拠づけ、しかも天人相関説はきっぱりと否定した。天地は活物（仁斎、徂徠すでに云う）という認識をうけつつも、それゆえ理論的なものを死せるものとして排除するのでなく、逆に周到な論理的思弁によってそのことを理論づけようとした。……要するに梅園の哲学は、西洋自然学と当時の日本の思想状況を媒介として気の哲学を改造し、自然哲学として展開したものであり、気の哲学は清の戴震とわが梅園において、同時にまたそれぞれの方向に、最後最高の段階に到達したのである。ただし、その哲学思想としてのスケールと厳密性体系性において、戴氏は恐らく梅園の上に出ることはできない。

なお、梅園の社会・政治論は全般に頗る

保守的で、気の哲学＝唯物論＝進歩的という図式主義を疑わしめるものがある。

編集後記

昨年の豪雪とはうって変わった比較的穏やかな気候で今年が始まりましたが、「寒」に入ると共に本格的な底冷えを感じるようになりました。本号の発行が大変遅れましたことを、おわび申し上げます。専従の編集担当をおかず本務のあいまをぬうようにして編集作業を進める雑誌の、いわば宿命のようなものとはいえ、心苦しく存じます。

さて、本号は様々な時期や地域、領域を対象とするレベルの高い力作がそろったバラエティーに富むものとなりました。もともと、前号に掲載しました一九八一年度の総目次でもおわかりのように、「論説」と「紹介」以外の論稿が本誌には少なく、本号のようなものは近頃では珍しい例に属します。「論説」は申すまでもなく、他の分野にも力作をお寄せ下さいますよう、お願いいたします。

ところで、既にお気付きの方もいらっしやるかと思いますが、本号から、中国語の

ローマ字の表記方式を、従来のウェード式から「併音（ピンイン）」に改めました。これは、「併音」が欧米でも中国語表記の主流に現在なりつつあり、将来はそれにほぼ統一されるだろうとの認識に基づいた処置です。

本号がお手元に届く頃には、吉田神社の節分祭もとくに終り、参道はいつもの通学路に戻っていることでしょう。そして春は、暦の上だけでなく、確実な足どりで少しずつ近づいていることでしょう。本年もまた、爽りの多い年でありませうように。

（光）

一九八二年十二月二十五日印刷
一九八二年一月一日発行 定価九〇〇円

史 林 (第六五巻第一号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部

発行人 史 学 研 究 会

理事長 樋 口 隆 康
振替京都五一五五番

印刷所

京都市下京区七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXV No. 1 Jan. 1982

CONTENTS

Article :

- Čübei, the prince of *Bin* 隣 and his genealogy*M. Sugiyama* (1)
L'image des *philosophes* dans le siècle des Lumières ...*T. Morihara* (41)
Crisis in 1923*S. Kajikawa* (75)

Note :

- La Guyenne sous la réforme royal (1776-88)*A. Okamoto* (106)
Die Aufgaben der Weistumsforschung*Y. Hattori* (136)

Book Review :

- Y. Itoh, The Origins and the Development of Johdo-shu**M. Taira* (161)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369